



社会学類への招待

A Guide to College of Social Sciences, University of Tsukuba



本澤 巳代子
 (法学主専攻教授 社会学類長)



国際化と社会科学

経済のグローバル化に伴って人の移動が活発化する中、日本を生活の拠点として、家族を築き、子どもを育てる定住外国人が急速に増加してきています。また、少子高齢化の進展に伴う労働力不足を補うために、留学生や外国人労働者の受け入れ政策が次々と打ち出されています。このように、日本社会の中での諸現象は、国際社会との関係を抜きに考えることができないものとなってきています。

社会・国際学群の中の社会学類

社会・国際学群では、社会学類の専門科目を履修しながら、国際総合学類の専門科目を履修することができます。つまり、社会学類では、日本社会や国際社会の中の現象や問題を考えたり分析したりするために必要な社会科学の基本的な知識を身につけながら、国際的な視野や感覚を身につけることもできるのです。

ようこそ社会学類へ

筑波大学について	1
カリキュラム / 社会学類について	2
卒業生の声	3
各主専攻の紹介 社会学主専攻	4
法学主専攻	6
政治学主専攻	8
経済学主専攻	10
在学生の声	12
「社学生」の生活	14
卒業生の進路 / 最近の主な就職先	16
入学案内 / 交通案内 / 筑波研究学園都市	18



学類長 本澤巳代子 先生とともに
 左より 岩本尊光 / 菅原静夏 / 本澤学類長
 井久保杏奈 / 崔宰荣先生 / 冲山京
 撮影=小沼 孝

社会学類の4つの主専攻

通常の大学では別々の学部や学科に属する「社会学」「法学」「政治学」「経済学」が、4つの主専攻として1つの学類を構成しています。つまり、社会学類では、多種多様な科目を自由に選択して幅広く学ぶことができ、その中で自分の興味や関心を多様な角度から見るができるわけです。その結果、入学したときに考えていた主専攻とは異なる分野に興味を持つようになることも珍しくありません。そのような学生達のニーズに応えるため、2年次の最後に1つの主専攻を選択することができるようになっています。

少人数教育

2年次までに社会科学の基本的な知識を幅広く身につけた学生達が、3年次から専門知識を集中的に深めることができるように、少人数教育によるきめ細かな教育が行なわれます。とくに、通常の大学では1つしか選択できない専門科目の演習を、社会学類

の学生は複数受講することができます。専門科目の演習では、与えられた課題や自分で選んだ課題について、積極的に情報や資料を収集し自らの考えを深めるとともに、先生や他の学生達との議論を通してより多くを学ぶことができます。

大学での勉強

専門科目の講義や演習を通して、自分の中で当たり前と思っていたことが、日本の他の地域や社会では当たり前でなかったり、国際社会では当たり前でなかったりすることを知って、皆さんは驚くかも知れません。それが学問的な刺激であり、また「なぜ？」という疑問が、学問の世界の面白さを教えてくれるかも知れません。大学での勉強は先生から答えを教えてもらうことではなく、「なぜ?」「どうして?」から始まるのです。大いに悩み・苦しみ、そして楽しんで下さい。

筑波大学は、百余年の伝統をもつ東京教育大学を引き継ぎ、1973年10月に「新構想」大学として、学際的な教育・研究を行うこと、社会的にも国際的にも開かれていることを目的に開学し、今年35周年を迎えます。長い歴史をもつと同時に、新たな伝統を創りつつある大学といえましょう。

東京の近郊、関東平野の中ほど、筑波山の南に広がる筑波研究学園都市（行政上は、茨城県つくば市）の一角に、全国でも有数の広大なキャンパスを占める本学の、他大学と異なる特徴は、次の3点にあります。

- ① 学部制に代えて、学生を教育するための組織である学群・学類を設けたこと。
- ② 前期2年の教養学部を廃止して、入学直後から大学としての専門教育を開始し、外国語や総合的な教養科目を効率的に配置したこと。
- ③ 3学期制（1学期：4～6月、2学期：9～11月、3学期：12～2月）を採用し、年度の途中からでも制度の異なる外国の学生や研究者・教員の往来を容易にしたことです。

社会学類は開設以来、人文学類、自然科学類とともに第一学群を構成してきましたが、社会情勢の変容や社会が求める大学像の変化などを踏まえ、平成19年度から社会・国際学群に属する2学類の1つとな

りました。社会学類は30年以上も積み重ねてきた成果を大事にしながら、新しい学群をともに構成する国際総合学類と協力しあって、社会科学分野における総合的・専門的な教育を一層充実させることを目指しています。たとえば主専攻ごとに、必要に応じて国際総合学類との共通科目が設定されており、社会学類生は国際総合学類の科目を履修しながら、社会学類の卒業に必要な単位を取得することができます。

さらに、社会学類生は、社会学類の科目に限らず、さまざまな他学群・学類の講義を受けることもできます。

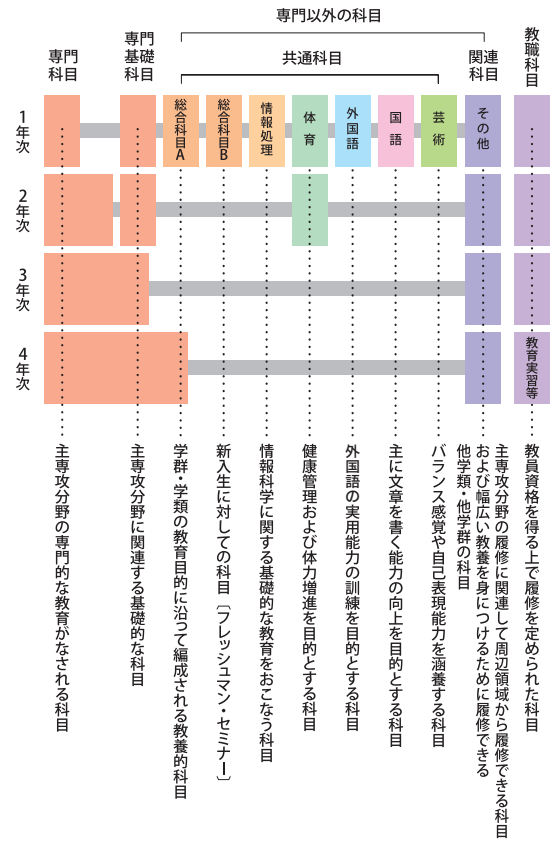
筑波大学の学群・学類

- 人文・文化学群 — 人文学類 比較文化学類 日本語・日本文化学類
- 社会・国際学群 — 社会学類 国際総合学類
- 人間学群 — 教育学類 心理学類 障害科学類
- 生命環境学群 — 生物学類 生物資源学類 地球学類
- 理工学群 — 数学類 物理学類 化学類
応用理工学類 工学システム学類
社会工学類
- 情報学群 — 情報科学類 情報メディア創成学類
知識情報・図書館学類
- 医学群 — 医学類 看護学類 医療科学類
- 体育専門学群
- 芸術専門学群

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では外国語、情報処理、体育、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、社会学部（ないし文学部社会学科）、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部それぞれに所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は中学校1種（社会）、高等学校1種（公民）です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で裁判実務の講義を行ったりしています。

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究所があり、現代文化専攻、国際公共政策専攻、法学専攻、経済学専攻の社会系4専攻などが設けられています。その他に教育研究科、生命環境科学研究科、芸術・世界遺産研究科、システム情報工学研究科、ビジネス科学研究科などがあります。法学分野では、東京秋葉原に、社会人を対象とした法科大学院（ロースクール）が設置されています。社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院（ロースクールを含む）を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

中村 亜貴 社会学主専攻卒／読売新聞社会部



動物園、通信販売、旅、死……。これらは全部、私が学生だった十数年前、当時のゼミ仲間や先輩たちが「社会学」していたテーマです。法学や政治学、文学などと比べると、社会学は高校生の皆さんにはイメージがわきにくい学問かもしれません。でも、こうして調べてみると、何でも題材になりうる、身近な学問に思えてきませんか？

私の卒論のテーマは、「喫茶店の社会学」。当時、一昔前まで多かった閉鎖的な建築様式の喫茶店はどんどん数が減り、街には、外に向かって開かれたオープンカフェや、スターバックスに代表されるコーヒチェーンが急激に増えていました。喫茶店の変貌はなぜ起こったのか、人々は何を求めて喫茶店に通うのかを、1年かけて考えました。

なぜ、どうしてと思う出来事や現象があれば、社会学はすぐ始められます。社会学専攻では、研究者たちの文献を読むことや、インタビューやアンケートなどを行う実習を通して、「なぜ」を解明するトレーニングを積むことになります。

私にとっては、4年間の勉強自体もたいへんおもしろく、有意義なものでしたが、ここで身につけた、物事をいろんな角度から見ようとする習慣は、新聞社に入り、記者の仕事をする上でもとても役に立っています。そしてそれはきっと、卒業後の道に進んでいっても、同じように糧となってくれたことは間違いないと思います。

テーマが見つかるか不安、という声も聞こえてきそうですが、心配はいりません。学生時代はおそらく、長い人生の中でも最も、いろんなことに首をつっこむことができる時期です。授業からヒントを得ることももちろんあると思いますが、サークル活動、アルバイト、旅やボランティア活動などでぶつかるふとしたことの中にも、「なぜ」の種はたくさん転がっているはずですよ。

すでに、社会で起こっていることに対する「なぜ」がある人はもちろん、まだそれがいない人も、一度社会学の世界をのぞいてみてはいかがでしょうか。

増田 静雄 政治学主専攻卒／NHK長崎放送局放送部勤務



「びっくりしたよ、面白かった」「そんなことがあったんだね、知らなかったよ」。そう思ってもらえる番組作りを目指し、今、ローカル局で奮闘中です。私の携わる仕事は番組制作で、ADのような業務も、企画からロケ、編集などすべて自分で担うこともあります。いつも、どうすれば多くの方に喜んで見てもらえる番組を作れるか、頭を悩ませています。何かヒントはないか、頭は常にフル回転で探します。そして、

その答えは、案外、日常生活の中に多く隠れています。以前制作した夜間の小児救急の番組。これは、夜の救急現場に子どもたちが押し寄せ、病院がパンク寸前であるというものでした。番組のきっかけは取材で行った地元の病院での光景で、夜なのに子どもで溢れていました。病院に子どもが沢山いるのは、一見普通ですが、私には大きな驚きでした。その背景に何があるのか。取材を進めるにつれ、共働きで夜間しか病院へ子どもを連れて行けない、核家族化で子育ての相談相手がいなく不安が募り、夜間の病院に駆け込んでしまう…など、いろんな事情が見えてきました。

私にとって大学生活は、そうした一つひとつの問題を見つけ出す発見力を培う貴重な時間でした。しかし、それだけではいけません。必要なのは背景に何があるかを探り出す分析力。この番組でも、夜の小児救急現場の光景だけを羅列しただけのことばかりありません。なぜそうだったのか。見つめていくと、医療制度や核家族、さらには政策決定での問題など多くの原因が見えてきます。その分析力こそ、政治学で学べることだと思います。そういう意味で人間関係が密で、さまざまな経験のチャンスが多いつくばは、最適な環境だったと思います。

大学生活はいろんな経験と勉強ができる場です。それを最大限に生かし、発見力と分析力をぜひ見に着けてください。きっと人生の大きな糧となると思います。こんな偉そうなことを言っている私も、まだまだ修業の身ですが…

竹内 信紀 法学主専攻卒／TMI総合法律事務所弁護士



それぞれの人には、それぞれの人生があります。そして、人は、それぞれの人生において、それぞれに主役を演じています。皆さんは、これから、その主役として、実に多種多様な道を歩んでいくことになるでしょう。

でも、その道も、単に闇雲に歩いていけばいいというわけではありません。皆さんが気持ちよくそれぞれの道を歩んでいけるように、道中には、様々なルールが作られています。

そのルールの一つに、法律というものがああります。法律は、日本で暮らしている人たちが、その人生を歩んでいく上で守るべきルールを定めたものです。私たちは、このルールにのっとって、それぞれの人生を歩んでいくことになります。ところが、この法律というルール、実にたくさんのが作られていたり、時として複雑難解な表現がされていたりと、なかなかの厄介者です。ルールがあったとしても、それを知り、正しく理解できないのであれば、守りたくても、守りようがありません。法律学というものは、このような複雑難解なルールである法律というものの読み方や考え方を学ぶ学問です。これによって、法律が定めているルールの内容がより一層明確になり、皆さんが、気持ちよく、人生を歩んでいくことができるようになります。つまり、法律学というものは、皆さんが主役として大手を振って人生を歩んでいけるようにする、一種のサポート役といった思いです。

サポート役ですので、決して派手な仕事ではありません。私が今就いている「弁護士」という職業も、そうです。あくまでも、主役の人たちがそれぞれの道を歩きやすいようにする、その人たちが笑顔で歩けるようにする、そんな職業です。

でも、このような職業だからこそ、普通では出会えない多種多様な主役の人たちに巡り合うことができます。そして、その巡り合いが、私に刺激を与え、私の世界を広げてくれたのだと思います。弁護士という職業は、人の笑顔を守る喜びと同時に、多種多様な人に会えるという喜びがある職業なのだと思います。

みなさんも、法律学を学ぶことによって、みなさんの笑顔の人生を守る第一歩を、そして、自分の世界を広げる第一歩を、踏み出してみませんか？

山川 直樹 経済学主専攻卒／筑波大学大学院人文社会科学研究所所属



経済学と聞くとみなさんは「お金」についての学問と思われるかもしれませんが、実際には「お金」そのものよりも「お金に対して人々がどう動くか」ということを考える学問だと私は思っています。(必ずしもお金だけに対してということではありませんが・・・) その分析の対象となる領域も様々で金融や貧困についてだけに留まりません。近年では法学、生物学、心理学、脳科学、・・・などなど多様な方面へ対象領域を拡げています。

また経済学は他の社会科学の分野に比べ数学を多用します。これは社会学類の経済学主専攻も例外ではありません。経済学主専攻に進もうとしている人にとってそれは避けては通れない道です。もちろん経済思想や経済史をやろうと思っている人もいますが、数理系の授業をとらないで卒業することはおそらく不可能でしょう。(逆に言えば思想や歴史の授業をとらずに卒業することも不可能ということです。)

しかし、数学が苦手という人や、数学をしたくないから文系に入ったのという人も悲観的にならないでください。経済学主専攻の先生方は非常に面倒見がよく、親しく接してくれます。わからないことがあれば許す限り時間割いてくれるでしょう。さらに学生にやる気があれば授業とは別に勉強会を開いてくれる先生もいます。また経済学主専攻は人数が少なく縦の繋がりが横の繋がりが密接です。試験前に共に勉強に取り組んだり、下級生向けにゼミや専攻の説明会を企画したり、経済学検定のチーム戦に出場したりと様々なことを同じ主専攻の仲間たちとしてきました。私が卒業した今もこれらのことは続いているはずですよ。

経済学主専攻に入れば同じ学問を共有する仲間たちと互いに助け合い、高め合えるだろうと私は信じています。経済学主専攻は他の主専攻と比べ何かとハードルが高く感じられるようですが、実際にはさほど苦勞することはあまり無いでしょう。(少なくとも私はですが・・・) それでは、みなさんの大学生活が充実することを心から願っています。

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらのように見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えない関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・差別・犯罪・逸脱行動）、文化論（スポーツ・都市・メディア・知識・歴史）、医療・福祉論（老いと病い・社会保障・介護）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒論タイトル抜粋」を見てみて下さい）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開設しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究科（国際公共政策専攻社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。



上— 専門科目講義
 中— 調査実習の一環で市民イベントをお手伝い
 下— 秋葉原見学（社会学演習）

卒業論文タイトル抜粋（平成20年度） ●社会運動組織についての一考察—意味付与のせめぎあい／協働の営み— ●地域意識の重層性と共同性ノスタルジーとナショナリズムの同根性 ●就職の社会学 ●日本における「スター選手」の生産と消費 ●若年層の生活世界における音楽実践の位置 ●社会的ひきこもりの境界線を巡って ●「安心・安全のまちづくり」のために ●都市再生における戦争遺跡—ドレスデンと広島— ●原宿生まれのアイデンティティ—消費される「原宿」と生きられる原宿のあいだ— ●自己実現という幻想 ●現代若者における格差問題 ●筑豊炭鉱における女性労働の社会学的考察—ワーク・ライフ・バランス実現を目指して— ●「知る」ことで差別はなくせるか—差別の心と報道の関係性をハンセン病から考える— ●戦後日本における左翼運動



い が ら し や す ま さ
五十嵐泰正 「都市社会学」「移民とエスニシティの社会学」「社会学演習Ⅳ」「社会調査実習」▶【都市社会学/国際人口移動論】▶「大学の中に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」ごもっとも。否定はしません。「社会は社会

に出てから肌で覚えるから、社会学なんていらないよ!」それはどうかな? 「社会」には、たくさん<社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を越れば想像もつかなく<社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る<社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの<社会>です。「社会人」になつてから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまなく社会>にまみれながら、いくつもの<社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



か つ や ま や す お
葛山泰央 「知識社会学」「社会学演習」▶【言説分析/知識社会学/フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営みを特徴付けているのは、さまざまな社会(的事象)をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会から

の視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



ど い た か よ し
土井隆義 「現代社会論」「犯罪社会学」「社会学演習Ⅶ」▶【犯罪社会学/法社会学/逸脱行動論/社会問題論】▶社会生活における様々な病理現象を素材に、社会的なものの見方について考える授業を行っています。社会学というパースペクティブから様々な病理現象をながめると、社会と私たちとの関りについて、いままで気づかなかった意外な側面が見えてきます。

私たちの生きている世界は、けっして一枚の織物ではありません。様々に織り重なった意味の層を探検してみると、重大な社会問題と思われるものが、じつは別の側面で現代社会のシステムを支えていたり、あるいは逆に、望ましいと思われていた理念が、その裏側では病理現象を招いていたいたりすることが分かってきます。社会病理に対する道徳的な判断も一つの偏見でしかないかもしれません。授業をとおして、社会病理をめぐる従来の常識を突き崩す面白さを味わうとともに、社会の中で私たちが生きていく意味についてもぜひ考えて下さい。



ファン スンヒョ
黄順姫 「社会学演習」「調査実習」「スポーツ文化論」「教育社会学」「調査実習」▶【教育社会学/文化社会学/スポーツ社会学】▶社会学の演習では社会学理論と、フィールドでの調査方法を学び、関心のあるテーマで論文を作成します。たとえば「記憶の社会学」では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマを設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コアタウンで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。

たとえば「記憶の社会学」では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマを設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コアタウンで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。



お く や ま と し お
奥山敏雄 「組織社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【組織社会学/社会システム論/医療社会学】▶教科書に書いてあることがすべて正しいと思わない態度を身につけることが大切です。社会についてはいろいろな見方や考え方が成り立ちます。様々な社会認識に対して、自分なりの距離を取れるようなタフさが必要なのであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。

様々な社会認識に対して、自分なりの距離を取れるようなタフさが必要なのであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。



た ら か わ の り こ
樽川典子 「家族社会学」「ジェンダー社会論」▶【家族社会学/福祉社会学】▶知識を習得する勉強から、学を問う学問へ。筑波大学社会学類で学ぶ楽しさの一つは、ここにあります。メディアがとりあげる出来事だけが社会でしょうか? 人びとの

生活のさまざまな事象をつうじて見えてくるものにも注目していきましょう。社会とは大学とは? 大学教授は何を考えているのか? わかりやすく知りたい方は、下記の文献を通読してみてください。

▶山下和美『天才柳沢教授の生活』全21巻、小学館



の が み げ ん
野上元 「歴史社会学」「社会学演習」▶【歴史社会学/メディア論/戦後思想史】▶なぜ社会学をやろうと高校生の頃に考えたのかを思い出してみると、人々の営みを高見から説明することに魅力を感じていたのかもしれない。意外な視点

で世の中や人間関係をばっさり斬り、物事の捉え方を変化させて、何気なく見えていた風景を変える…。社会学を学べば、まるで自分が世から超越し、何か偉い人間になれるのではないかと思ったわけである。

ただ、今ならそうは考えない。それは無力な高校生が頭のなかだけで一発逆転を狙っていたようなものだったと思うからだ。社会は高見から説明できるようなものではないし、「本質をとらえる」なんて、そもそもそれについて自分が詳しくなかったというだけであって、「ばっさり斬る」なんて、いまだにできたためしがないのだ。



よ し い ひ ろ あ き
好井裕明 「差別の社会学」「エスノメソドロジー」▶【差別問題/エスノメソドロジー/映画社会学】▶社会学には、ふたつのセンスが必要です。一つは「あたりまえ」を常に疑うセンスです。普段なにげなく暮らしている日常。私たちはそこで、どの

ように「普通に」「普通であること」に安住しているのでしょうか。今一つは、常に現実に向かい現実を具体的に調べようとするセンスです。「あたりまえ」を疑い、そこにははまれたさまざまな問題や力の行使など詳細に調べ、読み解き、批判していくために、「調べる」ということが基本なのです。

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題や、少年犯罪や児童虐待の増加等、「法的」な問題の目白おしです。また、国際化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えています。法律というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・国際化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心において、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの見方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することが、なによりもまず求められます。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切妥当な観点と判断力が、まさに法的なものの見方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールにいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています（うち約2割が公務員）。また、卒業生の約2割が法科大学院へ進学し法曹を目指しています。



上—専門科目の講義風景
中—演習風景
下—模擬法廷の風景

演習テーマ抜粋（平成21年度） ● 憲法判例の検討 ● 憲法の基本問題 ● 会社法、保険法の重要判例の検討 ● 不法行為法に関する裁判例の研究 ● 親族法・社会福祉法等の基本文献の検討 ● 刑法の重要問題の検討 ● 行政法の諸問題の検討 ● 刑事訴訟法の重要論点の検討 ● 紛争解決の法的技術の検討 ● 民事訴訟法の解釈問題の検討 ● 信託法に関する問題の検討 ● 裁判（その他の紛争解決制度）の役割と限界 ● 子どもをめぐる問題の総合的検討



岡上 雅美 「刑法Ⅰ」「刑法Ⅱ」「刑法Ⅲ」▶【刑事責任論/刑罰論/量刑/ドイツ刑法】▶大学とは、知識を増やすだけが目標ではありません。大学での4年間(以上?)をどのように過ごすかで、良くも悪くもその人の一生が決まります。「本当に好きなこと」を大学生生活の間で見つけてください。それぞれの「本当に好きなこと」を達成するためにも努力と正しい戦略が必要なのはです。できるだけ広い視野をもち、いろいろな物の見方ができるということが大切でしょう。いろいろなことを体験し、いろいろな本を読み、そして、是非是非、学生生活の間に、今まで行ったことのない外国を訪れてみてください。



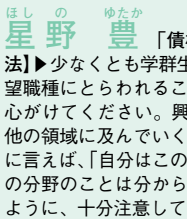
國分 典子 「法学概論」「憲法Ⅲ」▶【韓国憲法/憲法思想史】▶みなさんの中には、将来について既に明確な目標を持っている人も、まだ何をしたいかわからない人もいます。でもそれぞれ、あせらないで4年間いろいろなことを考えてください。そして時間をかけて、自分が一番大事にしたいものを発見していきましょう。それが必ずしも勉強や就職に直結するとは限りませんが、人生を豊かにし、苦しいときにも支える力になってくれると思います。



土屋 英雄 「憲法Ⅰ」「憲法Ⅱ」▶【憲法学/比較人権法学/中国法学】▶元気に(身体面)、真剣に(勉強面)、楽しく(精神面)、学生生活を送って下さい。



根本 信義 「裁判実務Ⅰ」「裁判実務Ⅱ」▶【裁判実務演習】▶【裁判実務/法教育】▶4年間はあっという間に過ぎてしまいます。知的好奇心を発揮して、いろいろな本を読んだり、さまざまなことにトライしてみてください。そうした中で、さらに夢中になれる何かが見つければ、あなたの人生にとってきっと大きな財産になるでしょう。おすすめの書は山ほどありますが、最近の新書は、手軽に読めてしかもなかなか奥が深いので、ファーストステップとしてはうってつけです。まずは、橋爪大三郎「人間にとって法とは何か」(PHP新書)、長谷部恭男「憲法入門」(岩波新書)、大屋雄裕「自由とは何か」(ちくま新書)、岡本薫「世間様が許さない!」(ちくま新書)などを読まれることをお勧めします。



星野 豊 「債権総論」「信託法」▶【民法/信託法/金融法】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。



本澤 巳代子 「親族」「相続」▶【家族法/社会保障法/ドイツ法】▶離婚や児童虐待など家族の抱える問題は、家族の中だけでも、法律知識だけでも解決できません。社会問題や社会政策としての側面、心理的側面なども一緒に考えて、初めて解決の糸口を見つげることが出来るものです。筑波大学社会学類には、このような総合的視野からの勉学を可能とする科目が揃っています。社会学類を志望する学生諸君には、こうした学類の特徴と利点を理解した上で、大学に来てもらいたいと思います。



小川 佳樹 「刑事訴訟法」「刑事政策」▶【刑事訴訟法/捜査法/刑事証拠法】▶大学で法学を学ぶことの意味は、民法、刑法といった個々の法分野に関する知識の獲得に尽きるものではありません。単なる暗記で通ることなく、法について学ぶことを通して、問題を発見・分析し、解決策を考え、他者を説得する、といった能力—これは、弁護士などの法律実務家以外の途に進む人にとっても「武器」となるものです—を身に付けることが重要です。がんばってください。



小西 知世 「民法総則」「不法行為」▶【医療事故・リスクマネジメント/インフォームドコンセント/末期医療/看護制度/在宅ケア】▶あなたのお名前は何か? おいくつですか? どんな人ですか?好きなコトはなんですか? キライなおコトはなんですか? 友達はいますか?好きな人はいますか? キライな人はいますか? あなたが大切にしているモノは何ですか? 将来は何になりたいですか? 夢ありますか?…小さい頃に、よく尋ねられたようなコト。今、あなたはこの問いかけに答えることができますか? もし答えられなくなっていったら、わからなくなっていたのなら、筑波大学で—たった4年間ですが—、一緒に探してみませんか。



出口 正義 「商法Ⅱ(会社法)」「保険法」▶【会社法/保険契約法/保険業法】▶大学ではこれまでとは違い自由な生活ができます。思いっきり遊び、思いっきり勉強してください。どちらかに偏っては良くありません。なにごとにもバランスが大事です。自分の好きなこと、興味のあることを思いっきりやってみることで、そこからきっと何かが生まれ君の心を動かし、君の感性と思考力を豊かにしてくれるでしょう。推薦する書籍は特にありませんが、歴史小説、スパイ小説、冒険小説、文学書、専門書でも何でもよいですから本を読むことを勧めます。自分の知らない世界・人間社会などをたくさん知ることがとくに社会学類の学生には大事です。映画や落語や演劇や音楽、スポーツなど何でもよいですから娯楽を楽しむことです。人間性を豊かにしてくれるでしょう。私のメッセージは「自由な心で思いっきり」です。



萩原 克也 「商法Ⅰ(総則・商行為)」「商法Ⅲ(有価証券)」▶【運送法(海上・航空)/有価証券法】▶商法の分野は複雑に見える部分もありますが、基本は「合理性」を追求した「実用的な制度と解釈」です。マニュアル思考とは違う法的なものの見方・考え方、論理性を習得し、社会にでたら起業家になったり、専門知識を生かして主体的に生きていこうと考えている方を歓迎します。まずは堅苦しく考えずに飛び込んでみてください。



村上 正子 「民事訴訟法」「民事訴訟法演習Ⅱ」▶【国際民事訴訟法/外国判決の承認・執行/弁護士倫理/証拠法】▶大学での4年間は、これまでの受身の学習を通して得た知識を活かしつつ、自分から積極的にどんどん学ぶことにより、将来の人生における選択肢を増やす大事な時間です。将来の夢が決まっている人もそうでない人も、できるだけ多くのことに挑戦して下さい。人生において無駄なこと、無駄な知識など一つもない、マイナスをプラスに変えようという前向きな姿勢を持ち、卒業するときに、「いや〜、4年間楽しかった!」といえる、そんな大学生活を送って欲しいと思います。私から皆さんへのメッセージは、「意志あるところに道は開ける」です。



横田 光平 「行政法Ⅰ」「行政法Ⅱ」▶【行政法/子ども法】▶法学に限らず社会科学は「入口と出口」が重要です。教室の中で学ぶ専門的な言葉や数字だけでなく、大学生活の中で様々な人達と出会い、いろいろなものを見て聞いて経験して、自分なりの「入口と出口」を見つけてください。

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものの見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



専門科目の演習および講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成20年度） ●市町村における雇用創出策の可能性 ●政策決定過程におけるマスメディアの影響 ●有事法制の立法過程における内閣機能強化の成果とその限界 ●「ゆとり教育」政策転換の政治過程 ●規制緩和と公共性～電力自由化から考える公益性概念～ ●外国人労働者に対する地域社会政策 ●戦後日本政治のなかの公共事業～歴史的・理論的考察～ ●選挙制度改革による首相のリーダーシップの変容 ●政治対立軸としての行政改革の政策目標化 ●防衛「省」昇格の決定過程 ●「作られた」争点投票—2005年総選挙の分析— ●4類型別に見る児童虐待防止政策 ●自衛隊の海外派遣と日本の世論 ●高校教育改革と総合学科の実態に関する研究 ●精神活動と権力 ●ジョージ・H・W・ブッシュがなしたこと



いとう しゅういちろう
伊藤修一郎 「行政学」「都市政治学」「地方自治論」▶【地方自治／パブリック・マネジメント／行政組織／まちづくり】▶

学生時代には気づきにくいのですが、大学の授業って、先人の知恵が詰まった宝の山なのです。社会に出てそのことに気づいた私からアドバイスさせてもらえば、日々の生活の中で感じる「なぜ?」「おかしい!」と思ったことを大切に、その疑問や問題意識を授業に持ち込んでみてください。きっと政治や行政の授業が、無味乾燥な呪文から、人と組織とが織りなすドラマに変わり、生活に密着したガイドとなり、改革の道筋を示す地図ともなるでしょう。



すずき そう
鈴木創 「比較政治学Ⅰ」「比較政治学Ⅱ」▶【現代アメリカ政治／議会研究】▶新聞やテレビで政治が語られない日はありません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。

常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



つじ なか ゆたか
辻中豊 「政治学」「市民社会政治論(大学院現代文化・公共政策専攻)」▶【各国の市民社会と政治／NGO・NPO・利益集団／政治過程の比較分析】▶政治は面白い…と15歳で感じてから、30年余、私は今も楽しく研究しています。中味はいずれ講義で聞いてください。政治は運命への自己決定という側面もあり、どうしてもなく大きな歴史の流れという側面もあるので、多様な接近が必要です。歴史の奔流に流されず、メディアやエリートに操られず、自分が主人公になること、そのために政治学がありますが、さてその肝心の自分とは何でしょう。それを知ることから研究が始まります。そのためには自分「研究ノート」をつけましょう。

政治は面白い…と15歳で感じてから、30年余、私は今も楽しく研究しています。中味はいずれ講義で聞いてください。政治は運命への自己決定という側面もあり、どうしてもなく大きな歴史の流れという側面もあるので、多様な接近が必要です。歴史の奔流に流されず、メディアやエリートに操られず、自分が主人公になること、そのために政治学がありますが、さてその肝心の自分とは何でしょう。それを知ることから研究が始まります。そのためには自分「研究ノート」をつけましょう。



ふる た ひろし
古田博司 「東洋政治思想」「情報戦略と政治」▶【東アジア政治／北朝鮮政治／宣伝煽動工作と思想教化／特定アジアの反日と日本の安全保障】▶今はポストモダンの時代ですが、学生諸君がまだ物心ついていない頃、日本にもモダンな時代というものがありました。世界は一直線に進歩していると思い込み、平等や自由が当たり前の理想のように唱えられ、進歩的文化人とか、良心的知識人といわれる人々が、その伝道者のように論壇を占拠していました。しかし、そのような安易な時代は終わってしまいました。いまは生きる意欲をみなが自分で高めなければならない時代です。外を見れば、近代化に失敗した国は民生を犠牲にして核とミサイル開発に走り、資本主義を始めたばかりの独裁国は偏狭なナショナリズムに駆られ、公害や毒食を世界にばら撒いています。内を振り返れば、身の回りのリスクは増大しているし、淘汰・自滅・墮落は人々を飲み込もうと待ち構えています。今大事なことは、外に対する防衛を固くするとともに、内における生きる意欲を絶えず高めていくことだと思っています。私の講義では、特定アジア(中国・韓国・北朝鮮)に対する我が国の安全保障を考えます。私のゼミでは、文章修業を中心に、マスコミ・情報関係への諸君の就職活動を積極的に支援します。昨年度は、日経・NHK・産経などに人材を送り出しました。強きをくじき、弱きを助け、社会的承認を獲得して生きる意欲を高めていく、そういう現実的、実務的、かつ庶民的な教育方針を採っています。おすすめの本：古田博司『東アジアの思想風景』(岩波書店、1999年サントリー学芸賞受賞作)、『東アジア・イデオロギーを超えて』(新書館、2004年読売・吉野作造賞受賞作)、現状分析は適宜「産経新聞」正論欄に執筆しています。2006年には、産経正論新風賞を受賞しました。

今はポストモダンの時代ですが、学生諸君がまだ物心ついていない頃、日本にもモダンな時代というものがありました。世界は一直線に進歩していると思い込み、平等や自由が当たり前の理想のように唱えられ、進歩的文化人とか、良心的知識人といわれる人々が、その伝道者のように論壇を占拠していました。しかし、そのような安易な時代は終わってしまいました。いまは生きる意欲をみなが自分で高めなければならない時代です。外を見れば、近代化に失敗した国は民生を犠牲にして核とミサイル開発に走り、資本主義を始めたばかりの独裁国は偏狭なナショナリズムに駆られ、公害や毒食を世界にばら撒いています。内を振り返れば、身の回りのリスクは増大しているし、淘汰・自滅・墮落は人々を飲み込もうと待ち構えています。今大事なことは、外に対する防衛を固くするとともに、内における生きる意欲を絶えず高めていくことだと思っています。私の講義では、特定アジア(中国・韓国・北朝鮮)に対する我が国の安全保障を考えます。私のゼミでは、文章修業を中心に、マスコミ・情報関係への諸君の就職活動を積極的に支援します。昨年度は、日経・NHK・産経などに人材を送り出しました。強きをくじき、弱きを助け、社会的承認を獲得して生きる意欲を高めていく、そういう現実的、実務的、かつ庶民的な教育方針を採っています。おすすめの本：古田博司『東アジアの思想風景』(岩波書店、1999年サントリー学芸賞受賞作)、『東アジア・イデオロギーを超えて』(新書館、2004年読売・吉野作造賞受賞作)、現状分析は適宜「産経新聞」正論欄に執筆しています。2006年には、産経正論新風賞を受賞しました。



こん どう やすし
近藤康史 「政治思想」「政策過程論」「現代政治分析」▶【政治理論・思想／福祉国家論／イギリスを中心とした現代ヨーロッパ政治】▶政治学を志す理由の一つに「社会を良くしたい」というものがあるでしょう。しかし、自分にとって「良い社会」が他人にとっても「良い」とは限りません。社会には様々な考え・価値を持つ人々が存在するからです。その多様性を踏まえながら、いかに平和的な共存の方法を見出すか、これこそが政治学の根本的な問いです。その問いへ向けて、まずはできるだけ多様な人々との付き合いやコミュニケーションを通じて様々な考えや価値に触れてみましょう。それが政治学への第一歩です。

政治学を志す理由の一つに「社会を良くしたい」というものがあるでしょう。しかし、自分にとって「良い社会」が他人にとっても「良い」とは限りません。社会には様々な考え・価値を持つ人々が存在するからです。その多様性を踏まえながら、いかに平和的な共存の方法を見出すか、これこそが政治学の根本的な問いです。その問いへ向けて、まずはできるだけ多様な人々との付き合いやコミュニケーションを通じて様々な考えや価値に触れてみましょう。それが政治学への第一歩です。



たけ なか よしひこ
竹中佳彦 「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交Ⅰ・Ⅱ」▶政治学・日本政治論(イデオロギーと政治意識、投票行動などの計量分析／戦後の政治外交史・思想史)▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培って下さい。

政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培って下さい。



ちま じょん
崔宰榮 「計量分析入門」▶【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的な能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。

社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的な能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。



まつ おか ひろし
松岡完 「政治外交史」「欧米政治外交史」▶【アメリカ政治外交史／冷戦史／ヴェトナム戦争史】▶受験勉強中のみなさんは、世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらないと思っているのでは?でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の政治外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。

受験勉強中のみなさんは、世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらないと思っているのでは?でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の政治外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。



みなみやま あつし
南山淳 「国際政治学」「国際紛争論Ⅰ,Ⅱ」▶【国際政治理論／国際安全保障論／グローバル化と国際紛争／国際組織】▶一人を殺せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです・・・」映画『殺人狂時代』(1947)のなかでチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、人間の生命を理不尽に奪う行為という意味では、殺人と戦争の分岐は犠牲者の「数」に求めるしかないのかもしれない。ただ誤解してはならないのは、大量虐殺の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦争行為における殺人を合理化しているという点です。近年のイラク戦争を見ても分かるように、その戦争(目的)が正しい否かの判断は、人によって、国によって、時代によって大きく変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、この国際政治の難題を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

一人を殺せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです・・・」映画『殺人狂時代』(1947)のなかでチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、人間の生命を理不尽に奪う行為という意味では、殺人と戦争の分岐は犠牲者の「数」に求めるしかないのかもしれない。ただ誤解してはならないのは、大量虐殺の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦争行為における殺人を合理化しているという点です。近年のイラク戦争を見ても分かるように、その戦争(目的)が正しい否かの判断は、人によって、国によって、時代によって大きく変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、この国際政治の難題を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

経済学への招待

経済学は、人文社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野であり、システマティックな方法と高度な論理性を備えている点に特徴があります。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されて、深い洞察をもたらしてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は、文科と理科の二つの側面をもった学問です。自然科学と同様に、経済学では明確な仮定の下での論理性に厳格です。また経済学が文种的であるのは、単に対象が人間活動であるからではなく、他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視するからです。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、社会問題を明析に、客観的に、そして検証可能な形で思考するための手段なのです。

教育方針と特色

経済学専攻では、論理演算に片寄った経済学教育を避け、理論と歴史・実証分析の調和された教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題をシステマティックにとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、工場見学を実施したり、日本銀行証券取引所見学を実施したりなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、教職、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



上—工場見学（クリーンルームにて）
中—演習風景
下—専門科目の講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成16～20年度） ●ハイエク経済学と彼の『貨幣発行自由化論』 ●筑波研究学園都市中心部における歩道環境の評価・経済学における倫理の役割——A. センの見解によせて ●茨城県のベンチャー企業の現状とその課題 ●Children in Developing Countries: The Case of Thailand ●企業価値評価の方法～無形資産に焦点をあてて ●ホテリングモデルの考察



小谷 清 「初級マクロ経済学」「中級マクロ経済学」▶【マクロ経済学/日本経済】▶社会科学の中で唯一サイエンスといえる経済学は、他の社会科学分野のちょっと面白いだけのお話とは違う、持ち重りのする組織的な知見です。経済学は、初歩的な自然科学の知識のように日常生活に必要でもあります。筑波大学関係者で4番目のノーベル賞受賞者たらんとする学生が入学されることを期待します。



篠塚 友一 「中級ミクロ経済学」「産業組織論」▶【ミクロ経済学/社会的選択理論/厚生経済学】▶某大学の経済学部を受験すべきか商学部を受験すべきか迷っていたとき、当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学(線型代数、微積分)や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。



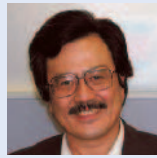
田中 洋子 「世界経済史入門」「ヨーロッパ社会経済史」「比較経済論」▶【グローバル化の社会経済史/ドイツ企業・労働史】▶経済のグローバル化は、私たちの日常生活の中から地球の隅々まで、社会や文化、一人一人の考え方や生き方、環境の変容をとまなう大きな変化をもたらしています。刻々と変わりつつある世界の現実をとらえ、これから進む道を考えるためにも、多くの本を読んで思考を深め、たくさんの現場を自分の目で歩き、多くの人たちと議論を重ねていってほしいと思います。歴史分析と国際比較の視点から、私もバックアップしていきます。



平沢 照雄 「日本経済史」「現代日本経済史」「日本経済論」▶【現代日本の経済規制と規制緩和/地域経済の歴史と現状】▶今日の日本経済は大きな転換期にあります。日本経済は、どのような歴史を経て現在に至り、今後どのような方向に向かおうとしているのかといったことに興味をもち、日本経済の歴史と現状について学びたいという学生に出会えることを楽しみにしています。



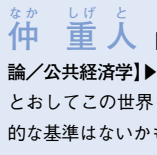
福住 多一 「経済数学」「経済学入門演習Ⅰ」▶【進化ゲーム理論/行動ゲーム理論】▶経済学の考え方を身に着けると、ややこしそうな社会の仕組みがスッキリとわかります。学問ですから習得には骨が折れますが、その苦勞よりも得るものは大きいでしょう。



小畑 二郎 「金融論」「古典派経済学と近代経済学」▶【金融論/金融史/貨幣・資産理論を中心とする学説史】▶現代の日本の経済社会は、歴史的に見て大きな曲り角に来ていると思います。金融機関や企業の整理・統合や、雇用不安、年金問題など、その具体例には事欠きません。私は、講義や演習などをつうじてこのような問題を一緒に考えるための知識や理論について語ってほしいと思っています。皆さんが、学生時代に生涯のテーマを見つけることを希望しています。



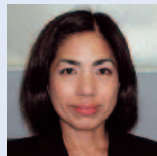
高見澤 秀幸 「ファイナンス入門」「経済統計学」▶【ファイナンス】▶皆さんの普段の生活で起こること(あるいは起こりうることが)、社会学類で学ぶ対象になります。その意味で、世の中の出来事に対して関心を持ち、なぜなんだろうという疑問を持つことが大事です。その答えが(全部ではないかもしれませんが)、この大学で見つかると思います。



仲 重人 「初級ミクロ経済学」「公共経済学」▶【公共選択論/公共経済学】▶人は、自分が社会関係を通じて形成した眼鏡をとおしてこの世界を見ています。眼鏡の良し悪しについては絶対的な基準はないかもしれません。しかし、少なくとも、経済学的手法は、一つの代替的な、かつ、とても興味深い眼鏡を提供してくれると思います。私の場合はそうでした。これは、自分と社会を認識している自分の視座を変革し、異なるレベルの満足と理解を得るために役に立つかもしれません。



平山 朝治 「経済思想史」「経済学演習Ⅵ」▶【経済思想/経済システム・文化・思想の進化と持続/日本社会】▶大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分でものごとを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間的余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持ってあましたり、自由に背を向けること(カルトにはまるなど)にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思っています。



箕輪 真理 「開発経済学」「経済学演習Ⅹ」▶【開発経済学/ラテンアメリカの経済/開発政策/社会開発】▶世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどうすごし、何を考えて、いかに生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえたいことを願っています。



社会学専攻
沖山 京

「凶悪化し多発する少年犯罪」、「若者たちの心の傷」、「増え続ける外国人の凶悪犯罪」、夕方のニュースなどで耳にしたことがありますか?もっともらしい口調で言われると、それらしく聞こえる表現って身近にありますよね。よく考えると、「少年たちは凶悪化しているの?」「そもそも「心の傷」とは?」など、「?」の余地はあると思います。社会学では、「?」が何でも研究対象です。もちろんあなたの好きなことや得意な分野を極めることも。スポーツ、音楽、映画、ファッション…誰にでも一つくらいは好きなことがありますよね。社会学は、色々な「社会」における興味や関心が研究対象。地元、学校、アルバイト先から、日本だって「社会」ですよ。でも、興味や関心を追求していくことって視野を狭めることになるのでは?と心配する方もいるでしょう。社会学ではあなたのこれまでの価値観や常識を疑ったり、自分と異なる見方が多数あるということを確認したりする中で、多角的な視点を築くことができます。あなたの知っている「社会」だけが「社会」ではないことが、いやでも分かってく

ると思いますよ。
一学年がおよそ80名の社会学類では学生同士や学生と先生方との距離がとても近く、特にゼミと言われる社会学演習や社会学調査実習は他の大学に比べると超少人数。高い理解度を得られつつ、学生同士の縦や横の強いつながりが出来ます。課題を手一杯になりながらもこなすことで、社会学を学んでいるという実感も得られるはずです。また、先生も時には「無茶ぶり」で鍛えてくれるので、社会に適應する力も身につけることができますよ!
学生時代の経験は「多いが勝ち」。それには自分から動かなければ何も始まりません。社会学を学ぶためには、色々な「社会」を知り、その「社会」に入っていかなければならないことばかりです。ゼミや実習でさまざまな職種の方のお話を聞いたり、街づくりのお手伝いをしたことで私にとって良い経験です。
あなたの背中を押したり可能性を広げてくれたりする「きっかけ」がたくさんの社会学類で、いっしょに色々な「社会」を学んでみませんか?



法学専攻
若本 尊光

期待と不安をもって入学してきた私にとって、筑波大学で送る学生生活はとても充実したものとなっています。先生方から多くのご指導をいただいた高校生の時とは違い、一人の大人として扱われることは、自分自身の行動に責任を感じつつも、自分の考えで自分のやりたいことを「自由」にできることであり、とても魅力的なものです。「自由」であるといっても、それは社会の決められたルールの中でそうした時間を過ごしているから、つまり、法律という決まり事があるからといっても過言ではありません。皆さんは、今までに法律について考えたことはあるでしょうか。テレビや新聞を見ると、そこには刑法や民法に係わる事件が連日報道されていますが、堅苦しい、難しいといった感想を持つことも確かにあります。しかし、平成21年5月に施行された裁判員制度によって、そのような法律も今まで以上に私たちの身近なものとなってくるはずです。
法学専攻では、少人数のゼミで与えられた課題や、自分自身が疑問に思うことを調べて先生や学生と意見を述べ合ったり、討論したり

することで、そこから新たな発見や、さらに調べていこうという関心を持つことができます。また、模擬裁判を利用して実際の裁判を体験し、実務的な立場から法律を学ぶこともできます。このように法律を紐解いてみると、とても奥深く、そして、実はとても面白いものであることに気付くことができました。
筑波大学の特徴として、専門分野だけでなく他学類の講義も受講することが可能です。私たちの社会はいろいろな出来事が交錯して成り立っており、とても複雑です。一つの視点からだけではなく、様々な視点から物事を見ることで、今まで発見することのできなかった論点や問題点を見つけることが必ずできるでしょう。
少しでも興味があれば、きっと法学の面白さに気付くことができるはずです。さあ、あなたも一緒に法学の魅力に触れてみませんか。





政治学専攻
菅原 静夏

何かを解決したい、なぜうまくいかないのか、納得できない…このような思いを持って政治学を志す人も多いのではないのでしょうか。私が政治学に興味を持ったきっかけは、なぜ争いはなくならないのか?という漠然とした疑問を持っていたからです。それだけに、ある授業での「戦争をなくす特効薬なんてものは、ありません。あつたら、世界はとくに平和になっています」という言葉は衝撃的でした。政治学とは、社会そのもの、人間同士の関わり、それとも権力の配分でしょうか?明確に定義するのは難しいことです。“政治=政治家・政府・選挙…”という表面のイメージから一歩踏み込むと、想像以上に多種多様な社会・集団・人の考えなどが内包されていて、これまで自分がいかに政治を狭くとらえていたかを思い知りました。普段の生活では「政治」と聞くと固くて、なんだか自分とは関係のないことだと感じるかもしれませんが、数カ国語で表記された看板はその土地の外国人労働者の多さを、混雑した病院は医師不足問題を想起させます。このような社会現象の影に隠れた多種多様な利害

調整、規制緩和、条例の制定などのために政治は少なからず関わっているのです。積極的であるかどうかに関わらず私たちは政治の一部であって、少し目を向ければ身の回りに「政治」は意外と簡単に感じられると思います。地方の選挙から、日本の財政、遠く離れた国の紛争について、そもそも民主主義とは何かということまで、政治学のフィールドは幅広いものです。政治学専攻にも、全く同じ研究テーマを持った人はいません。異なる興味・意見・価値観を持った仲間と議論したりすることは、一人で本と向き合っているだけでは決して得られない貴重な経験です。確かにあなたの問いに対する特効薬はないかもしれませんが、海外へ行くことより日本を知るように、これまでの枠の外に出ることで、より自分の問いに近づくことができるのではないのでしょうか。

政



経済学専攻
井久保 杏奈

自分の夢の実現や、自分のやりたいことを見つけるために大学に進学する人は多いと思います。私も夢を実現するために筑波大学に進学しました。私の夢は自分の地元のために役立つ仕事をする事です。特に人間の活動の根源である経済面にかかわる仕事をする事です。世の中を動かしている経済ってすごく大切なのに、なかなか理解できてなくて、社会に取り残されているような感覚がする…そんなことを感じたことはありませんか?経済の仕組みを理解し、夢を実現するために経済学専攻を選択しました。筑波大学を選んだ理由は、他の学類の授業を容易に受講可能だから。1つの確立した学問といっても、他の分野と関係する部分はとても多いですね? 経済と政治は密接に関わっているのを見ればそれは明らかです。包括的に1つの事象を分析できるようにたくて選択しました。経済学専攻の一番の特徴は少人数制です。そのため生徒と教師の距離がとても近いのがメリットです。私自身先生の研究室でカードゲームをしたり、先生の家ホームパーティにいったり、経済の

話をしたり、その時間を通して経済への関心や意欲を高めているといっても過言ではありません。また、意識の高い先輩方がそろっていて、自分達で勉強会を行い、互いに切磋琢磨できる環境がそろっています。私自身、経済学検定を始めとして勉強会に参加し、自分から動いていくことで仲間の輪も広がりました。今ではベンチャー企業の人と話をしたり、友達と会社を運営したり、ビジネスモデルを考えたり、多方面で活動をしています。地方が地元の私にとって、専門書が沢山あって、意識の高い仲間恵まれた環境に身をおくことができるのは今しかありません。今という時間を取り戻すことはもう二度とできないから、後悔しないように精一杯努力する。その心に答えてくれる仲間と先生が経済学専攻にはいます。このような環境で学んで見たいと思ったあなた。一緒に経済を学びませんか?

経



在学生の声



授業の合間に一食でくつろぐ4年生。夏の旅行の計画でもたてているんでしょうか



第三エリアの食堂、通称「三食」。専門店が並び、人気の店はいつも賑わっています。



2007年夏、移設オープンした「STUDENT PLAZA」。ここでは、「就職課」などがあり、就職活動に関する様々な資料が集まっています。



ゼミ発表の打ち合わせ。何週間も前からこのように発表準備をしているんですね。



第一エリアの食堂、通称「一食」。名物のカレーを大盛りしてくれることも・・・?



人気授業の「政治外交史」の授業風景です。映像も使いながらの授業を行っています。



年2回、春と秋に行われるスポーツデー。サッカー、バスケット、バレーなど様々な種目が行われ、多くの学生・教職員が参加します。



学務などの学生生活をサポートする人文社会科学等支援室(学群教務)。親切で丁寧な対応で、皆さんをサポートしています。



ゼミの風景。少人数で行うので、先生と学生とが積極的に議論を行える場です。



社会学類誌「そおしあ〜る」の編集会議の風景。発行部数は500を超える、人気の学類誌です。



第二、第三エリアの間にある噴水。天気の良い日には、ここでのんびりしている人を多く見かけます。



松美池。この池の周りには多くの人が集まってきます。昼食をとる人、音楽の演奏をする人など、学生にとって憩いの場となっています。



休講、教務連絡、バイト情報など様々な情報が満載な掲示板です。



新入生歓迎行事における野外炊飯の様子。準備から片付けまで一緒にやることで、一年生同士の距離が縮まるかも・・・？



毎年10月に行われる「雙峰祭」。社会学類企画委員会が主催する「松美記念」では、馬に扮した学生達が松美池を疾走します。出馬した皆で記念撮影！



宿舎に入居している学生を中心に、毎年5月末に行われる宿舍祭。写真は学類ごとに作成された神輿が披露され、盛り上がっている様子。



中央図書館です。図書館内にはテイクアウト可能な喫茶店もあります。試験期間前になると多くの人が課題に追われて図書館を利用します。



これは10月の雙峰祭で社会学類の学生が開いた喫茶店です。売り上げは結構よかったみたいです。



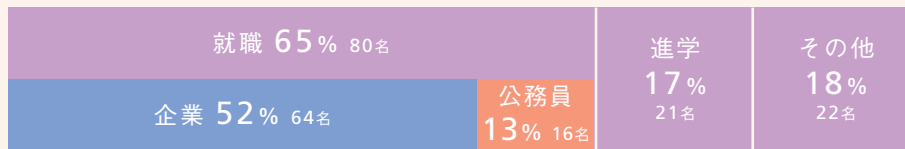
今回このページの写真とコメントを一人でまとめてくれた社会学類4年生の北嶋君です。協力ありがとうございます！

社会学類の卒業生の進路は、民間企業、マスコミ関係、国家公務員・地方公務員、教職などへの就職や、大学院（ロースクールを含む）への進学など、それぞれの志望にしたがって多方面にわたっています。卒業生は、すでに社会の各分野で幅広く活躍しており、高い評価を受けています。

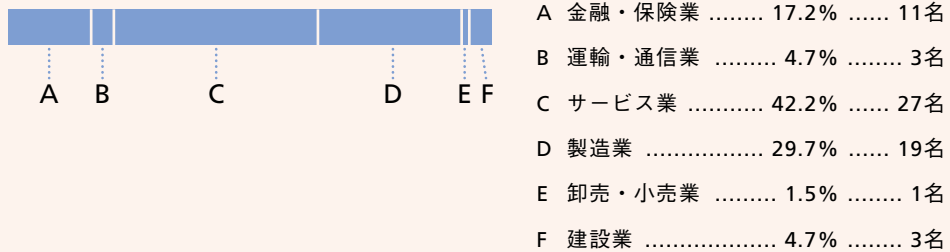
平成20年度の卒業生の進路状況を見ると、就職者が68.2%、進学者が22.1%になっています。就職先は企業が75.3%、公務員が19.5%となっています。さらに企業就職者の内訳をみると、サービス業（29.3%）、金融・保険業（24.1%）、製造業（20.7%）の順に多くなっています。

◎ 平成18年度

[卒業生123名]

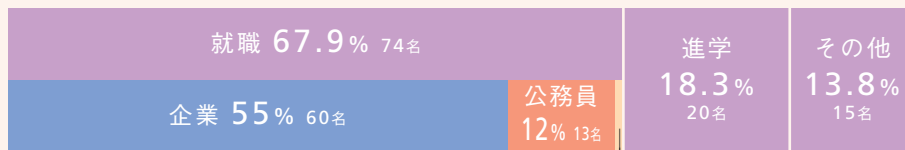


▶ 企業就職者の内訳

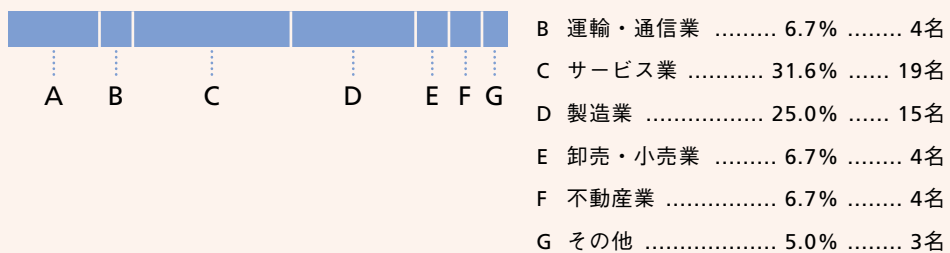


◎ 平成19年度

[卒業生109名]

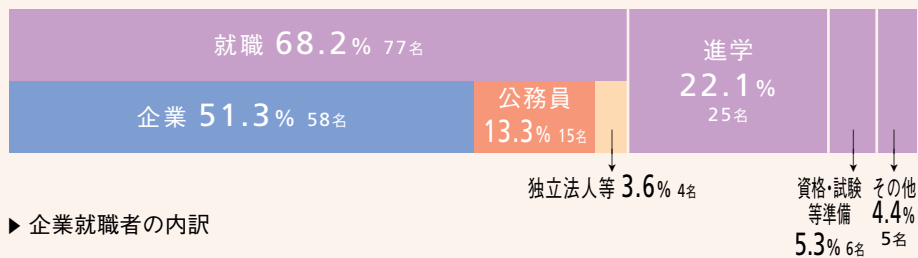


▶ 企業就職者の内訳

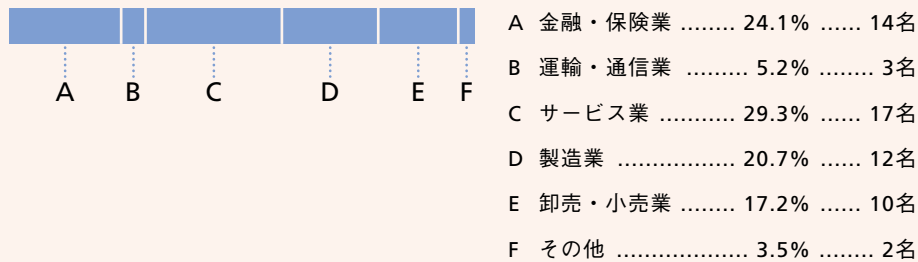


◎ 平成20年度

[卒業生113名]



▶ 企業就職者の内訳



金融・保険業

三菱東京UFJ銀行
三井住友銀行
みずほ銀行
関東つくば銀行
千葉銀行
大和証券
野村証券
新光証券
日本生命保険
住友保険
朝日生命

運輸・通信業

日本通運
日本航空インターナショナル
JTB
H.I.S.
NTT東日本
朝日新聞社
読売新聞社
日本経済新聞社
産経新聞社
南日本新聞社

サービス業

NHK
TBS
宮崎放送
中部日本放送
毎日放送
日本IBM
日本ユニシス
ベネッセコーポレーション
リクルート
三井不動産
東映
住友商事
三菱UFJニコス

会計事務所
法律事務所
特許事務所
郵便局

製造業

凸版印刷
川崎重工業
住友重機械工業
住友化学
住友林業
日立製作所
日立化成
クラレ
日本たばこ産業
ダイハツ工業
出光興産
横浜ゴム
国分
セガ
パイオニア
セイコーエプソン
シャープ
東芝

卸売・小売・飲食業

ローソン
エーエム・ピーエム・ジャパン

建設業

ミサワホーム
清水建設

国家公務員

環境省
財務省
国土交通省
国税局
労働局
家庭裁判所

地方公務員

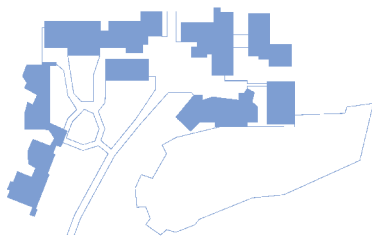
都道府県庁 (東京、茨城、埼玉、群馬など)
市区役所 (横浜、つくば、世田谷、板橋など)
都市整備局
警察署 (埼玉、静岡など)

独立行政法人など

全国農業協同組合連合会
宇宙航空研究開発機構
日本音楽著作権協会
国立文化財機構
名古屋大学
茨城大学
信州大学
筑波大学

最近の主な就職先 (平成17～19年度)

- * 入学定員 1学年80名(国費留学生は別枠)/編入10名
1. 推薦入学試験 募集人員 16名
試験時期 11月下旬
試験科目 小論文、面接
 2. 学力試験 募集人員 前期54名 後期10名
試験時期 大学入試センター試験… 1月中旬
個別学力検査… 前期 2月下旬 後期 3月中旬
▼個別学力検査の試験科目
前期 ・外国語(英[英II・リーディング・ライティング]、独、仏、中の中から1科目を事前選択)
・数学(数II・数B)/国語(現代文・古典)/地理歴史(世界史B、日本史Bから1科目を選択)から1教科事前選択
後期 論述試験(外国語を含む)
※変更予告 平成23年度入試より後期日程は実施しません。
 3. 私費外国人留学生試験 募集人員 若干名
試験時期 2月下旬
試験科目 小論文、面接
 4. 2学期推薦入学 募集人員 若干名
試験時期 7月
*帰国生徒のみ 試験科目 小論文、面接
 5. 編入学試験 募集人員 10名
試験科目 2月下旬
試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語、面接
- ◎問い合わせ先 筑波大学学務部入試課入試第一係 Tel. 029-853-6007
なお、募集要項の発表は、毎年9月下旬です。



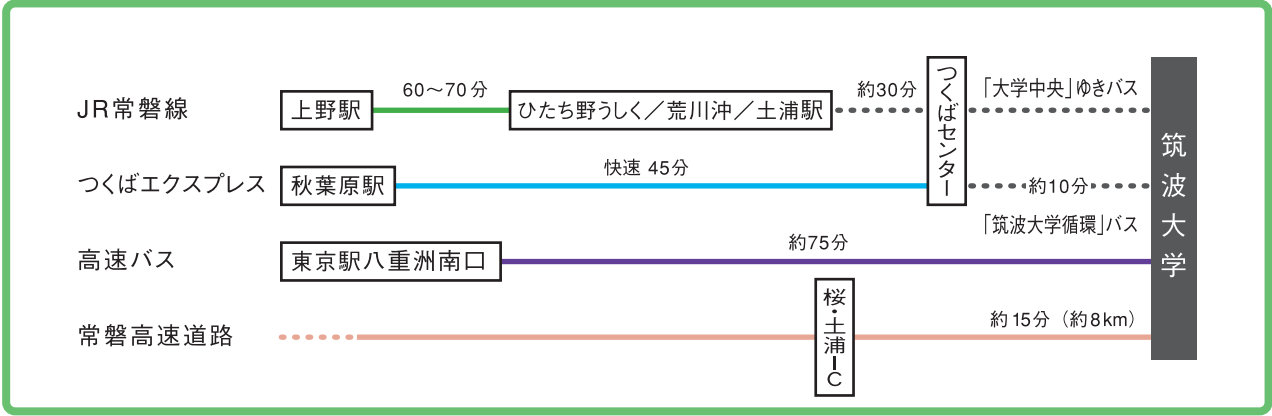
筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2009年7月24日 初版一刷発行 禁無断転載

- 編集委員 本澤巳代子 委員長:崔 宰栄 五十嵐泰正 横田光平 仲 重人
企画・編集 社会学類広報委員会
デザイン 繁田 彩 松沢康行
写真 後藤 さくら
発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>
印刷・製本 株式会社いなもと印刷

交通案内



筑波研究学園都市





社会学類への招待

